算命学中庸

【初年】３５回目

３５回目の授業はこのページからです。

授業科目　　〖人体図純濁法〗

✏ 人体図純濁法（じんたいずじゅんだくほう）

３４回目の授業〖**人体図だし方**〗でまなびましたように、
〔人体図〕には「十大主星」が五星でてきます。
それらの星を〔純星（じゅんせい）〕〔濁星（だくせい）〕に分けることができます。
〔純星〕と〔濁星〕に“良い”“悪い”とかの意味はありません。
拉致被害者〔曽我ひとみ〕さんのご家族を例題として、
段階的に話を進めていきます。

✻ 曽我 ひとみ　1959(S34)-5-17

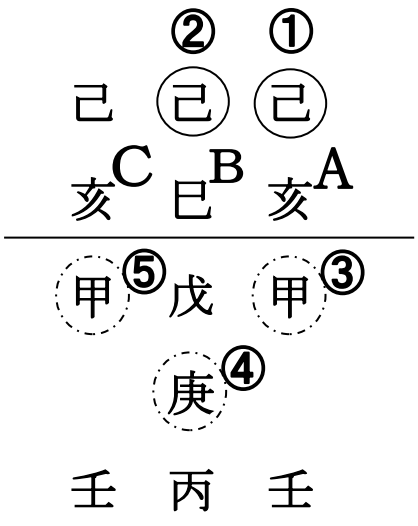
	己	己	己		貫索星	天報星
辰	亥	巳	亥	牽牛星	調舒星	牽牛星
巳		戊		天報星	貫索星	天将星
	甲	庚	甲			
	壬	丙	壬			

7 庚午
17 辛未
27 壬申
37 癸酉
47 甲戌
57 乙亥
67 丙子

曽我ひとみさんとおなじ生年月日の人は、世界中に何万人といるでしょう。何百万人かもしれません。
生年月日がおなじでも、それぞれの運勢は異なります。

曽我さんの両親と、その人たちの両親がおなじ生年月日ということはないでしょうし、環境も異なります。
両親がいつ結婚したのかによっても変わってきますし、兄弟がいるのか、いないのかでも、違ってきます。
とうぜん育った国も環境も影響します。
それゆえに、おなじ生年月日でも運勢は異なるのです。

✻ 曽我 ひとみ　1959(S34)-5-17



	貫索星 ①	天報星 A
牽牛星 ⑤	調舒星 ④	牽牛星 ③
天報星 C	貫索星 ②	天将星 B

宿命のだし方は勉強しました。この人体図とおなじになれば正解です。

１．節入り日から、生まれた日までを数える。

（節入り日も、生まれた日も、共に１日と数える）

２．その日数を二十八元表にあてはめ、二十八元を決定する。

３．日干から、ほかの５つの干を見て、星になおす。

人体図ができあがりましたら、これを基にして、占いをしていきます。人体図の実践的な観方を勉強します。

✏〖人体図純濁法〗

人体図をだして一番初めに占うのは、人体図純濁法だとおもってください。**鑑定においては必ず観ます。**

人体図純濁法（じんたいずじゅんだくほう）という名称のとおりでして、人体図には〈純の人体図〉と〈濁の人体図〉の二通りあります。

人体図を観て、〈純〉と〈濁〉を判別するのです。

純 濁 法　　**基本的な質**

十大主星の各星を、純濁の質によって二分類したものです。

純 星 ⇒ 鳳閣星・禄存星・司禄星・牽牛星・玉堂星

濁 星 ⇒ 貫索星・石門星・調舒星・車騎星・龍高星

純 星　**清らかで穏やか、平和的な性質をもつ、純粋な星**

濁 星　**濁っていて烈しく、動乱的な性質をもつ、濁った星**

純の宿命　おとなしく、やさしく、平和的な職業に向く

濁の宿命　烈しく、厳しい世界に向く

純 の 人　平和に強く、安定した時期や社会環境で能力発揮

濁 の 人　非常時や不安定な社会環境で能力発揮

➾ 04 頁の実線枠内に書かれていますように、十大主星は〈純の星５つ〉〈濁の星５つ〉に分類されます。
１０星は各星の意味合いに応じて分類されたものです。

純星はどちらかといえば穏やかな星です。
濁星は穏やかではない星です。
純星と濁星はこのように考えておくとよいでしょう。
詳しくは後(のち)ほど説明します。

🔍 04 頁の 純 濁 法 をご覧になってください。

〈純星(じゅんせい)〉

☆ 鳳閣星

鳳閣星はのんびりの星です。ゆえに、鳳閣はどちらかというと穏やかです。それで純星です。

☆ 禄存星

禄存星は親切でやさしい星という特徴をそなえています。
それゆえに、どちらかというと穏やかな性格です。

☆ 司禄星

司禄星は堅実で家庭的な星という特徴がありました。

司禄星も穏やかです。

☆ 牽牛星

牽牛星は真面目で家庭的なので、どちらかというと穏やかです。

☆ 玉堂星

玉堂星は学問の星ですが、母性愛をもっていて母性本能の強い星ですがやさしい星です。これも穏やかです。

もちろん〔鳳閣星〕〔禄存星〕〔司禄星〕〔牽牛星〕〔玉堂星〕という５星については、１つ１つの意味合いは違いますが、まずは、穏やかなのか、穏やかではない……というように大雑把に分けますと、「穏やかです」というふうになります。

〈濁星（だくせい）〉

☆ 貫索星

貫索星は頑固な星で、穏やかとはいえません。気が強い星です。ゆえに**濁星**になっています。

☆ 石門星

石門星は協調性の星ですが、反骨精神を内在しています。その意味では、穏やかというよりは、激しい、気が強い面をそなえている星です。
それで**濁星**になります。

☆ 調舒星

調舒星は神経質・繊細ですが、内面に反発心・反抗心をそなえています。そして、執念深いところがあります。と習ったと思います。それゆえに**濁星**です。

☆ 車騎星

車騎星は行動力があり、攻撃本能が本来の姿ですから、これも穏やかではないのです。**濁星**です。

☆ 龍高星

龍高星は改革の星といわれるように、毎日、毎日おなじことの繰り返しでは飽きてしまいます。

穏やかな生き方は嫌いです。龍高星も**濁星**になります。

✏ **実際に占うときには……。**

人体図にある５つの十大主星の一つ一つを、〔純の星〕と〔濁の星〕に判別していきます。

🔍 **04 頁の** 純 濁 法 **を見ながら、判別すればよいですね。**

曽我さんの人体図の５星は〔貫索星〕〔調舒星〕〔貫索星〕〔牽牛星〕〔牽牛星〕です。このように、**5** つの星なかに〈純星〉と〈濁星〉が混ざっている場合が多いのです。

各星を〈純〉なのか、〈濁〉なのか、判別していきます。

そうしますと、第四命星〔貫索星〕は〈濁星〉です。

ここでは **だ** と書いておきます。

	貫索星 **だ**	
牽牛星 **じ**	調舒星 **だ**	牽牛星 **じ**
	貫索星 **だ**	

主星〔調舒星〕は〈濁〉です。**だ**

第二命星〔貫索星〕は〈濁〉です。**だ**

第一命星〔牽牛星〕は〈純〉です。**じ**

第三命星〔牽牛星〕は〈純〉です。**じ**

ご自分の人体図をだしたら、〈純星〉はいくつあるのか、〈濁星〉はいくつあるのか、数えます。必ずどちらかが多くなります。

☞ 曽我さんは〈純の星が２つ〉〈濁の星が３つ〉ですから、〈濁星〉のほうが多いです。

	貫索星 **だ**	
牽牛星 **じ**	調舒星 **だ**	牽牛星 **じ**
	牽牛星 **じ**	

濁星ー３　純星ー２

〈濁星〉のほうが多いので、曽我さんは〈濁〉の人体図と結論を出します。

見分け方は難しくないのです。

純の星と濁の星の数を比べて、多い方を取ります。

〈純が多ければ純の宿命〉で〈濁が多ければ濁の宿命〉ということになります。

・人体図を出したら、まず一番に〈純濁〉を判別します。

・１つでも多いほうを人体図の特徴と考えます。

純星よりも、濁星が１つでも多ければ、濁の人体図になります。

〈純の宿命〉なのか〈濁の宿命〉なのかを判別しても、その意味がわからないと占いになりません。

そこで―― 🔍04 頁の 純 濁 法 を見てください。

宿命は大きく分けて〈平和型の人体図の人〉と――〈動乱型の人体図の人〉がいます。

〈純の宿命〉平和型です。

〈濁の宿命〉動乱型です。

〈純〉 平和型 ⇒ 鳳閣星・禄存星・司禄星・車騎星・龍高星

〈濁〉 動乱型 ⇒ 貫索星・石門星・調舒星・牽牛星・玉堂星

このことは〈純〉と〈濁〉の基本です。

〈純〉と〈濁〉の基本をもう少し詳しく考えますと……。

平和型 ⇒ 平和で安定した環境に向きます。

平和型は〔平和な時代〕とか〔安定した環境に向く〕という意味があります。

✻ マリリン・モンロー　1926-6-1　　〔1962-8-4 没・35 歳〕

自殺といわれています（真相は不明です)。

	牽牛星	天報星
貫索星	牽牛星	司禄星
天禄星	鳳閣星	天極星

マリリンの人体図をみると、〔貫索星〕だけが〈濁星〉ですから、ほかの４つは〈純星〉です。

彼女の人体図は、おだやかな星〈純の星〉が多いですから、平和な時代・平和な環境のほうが生きやすいわけです。

彼女の人体図は〈純〉ですから“純の宿命”です。

〔平和で安定した環境のほうが実力を出せる〕そのように考えてもよいですね。

〈純の宿命〉平和で安定した環境で実力をだせる

“平和”という時代背景は、〈純〉の宿命の人にもちろん影響しますけど、平和な時代だからといって〈純の人〉が生きやすいとは限らないのです。

国そのものは平和な時代でも、その人物が現在(いま)生きている環境が、動乱の環境なのかも知れません。

安定した環境とはいえないのかも知れないのです。

それゆえに“平和な時代”といっても、その人が“現在”置かれている環境が重要になります。

実際に生活している環境のほうが重要です。

そのように考えて頂きたいのです。

☞ 平和型というのは〈平和に強い人〉と、いえるわけですけど、本当にその人物が平和な場所・地域で生活しているのかどうかは、実際にその人物が暮らしてる状況を知らないと、わからないわけです。

国が平和だから、国民のすべてが平和だとは決まっていません。

〔たとえば〕福島原発で避難をした人は、動乱に遭っていたわけです。あるいは、集中豪雨などの動乱・波乱の環境に置かれている人たちもいます。

動乱型 ⇒ 動乱で不安定な環境に向きます。

動乱型は動乱に強い宿命なわけですが、戦争がないと、活躍できないかというと、そうではありません。

〔動乱とか不安定な環境に向く〕という意味です。

そのような環境に身を置いたほうが、実力を発揮できるという宿命の人もいるのです。

〔たとえば〕その人の周囲で、なにかゴタゴタした問題が起っているとか、会社ということでいえば――すごく不安定で動乱期であるとか、組織のなかで揉め事があるとか、そのような環境のほうがチカラを発揮して、出世できる人がいます。そのような状況に強いです。

濁の人が平和な環境に置かれてしまうと、たいくつで、実力が出せなくなります。

毎日の生活が安定しすぎていると、濁の宿命はストレスが溜って、実力を十分に発揮できなくなります。

〈純の宿命〉は不安定な環境には向かないのです。

会社内部がゴタゴタしているとか、問題が起きて不安定な環境に置かれてしまうと、**純**の人もその影響を受けてしまいます。そのような波乱に対処できず、精神的にも

動揺してしまい、実力を十分に出せなくなります。

〈純〉と〈濁〉はこのように考えてよいわけです。

〈純〉は本質的に穏やかな星が多いわけですから、性格的にもおだやかな質を持ちます。

穏やかな性格 ⇒ このことも特徴のひとつです。

〈濁〉の人のほうが、はげしいです。

激しい性格 ⇒ たくましい

動乱に強いということは、なにかに挑戦できるという、たくましい質を有しているわけです。

そして……〈純〉と〈濁〉はつぎのようにもいえます。

〈純〉平和で安定して穏やかな性格ということなので、純の人は〔**家庭的**〕です。

〈濁〉動乱・波乱といった、不安定な環境に向くわけですから〔**非家庭的**〕です。

〈純〉家庭的
〈濁〉非家庭的 ⎫ **このような違いもあります**

✏ 女性で〈濁〉の宿命

濁の女性は、非家庭的な宿命といえますので、結婚して家庭のなかだけに落ち着くような生活……良くいえば〔平和で安定している生活〕ですが、そのような生活だと適合しないのです。

女性であっても“たくましい性格”なのに、家庭のなかに閉じこもっているだけでは、逞(たくま)しさを活かせません。
ゆえに、どうしても不満足が芽生(めば)えて来ます。

家庭的な生活を強いられる状況になると、非常に不満足になります。ストレスが溜まってきます。
そうなると、家庭以外の不安定とか、動乱とか、そのような環境を自ら求めるようになります。
それは仕事よいし、趣味でもよいし、どのような事柄でもよろしいのです。
そういった生活環境をもつことで、性格的にも生き生きとして来ますし、そのほうが運勢も伸びます。

✏ もう一つ〈純濁〉には、大切な考え方があります。

〈純〉はもともと穏やかではあるのですが、周囲からの影響を受けやすいのです。

〈純〉まわりの影響を受けやすい

純には「純粋」という意味がありまして“透明な水”を思い浮かべるとよいでしょう。

水は朱に交われば赤くなり、青い色を混ぜれば青くなります。いろいろな色に染まりやすいわけです。

ペットボトルの清らかな飲料水に、わずかな泥が混入しても、汚れてしまいます。

純はまわりの影響を受けやすい質を内在しています。

良くも悪くも、まわりの色に馴染みやすいのです。

〈純の人〉を取り巻く環境が清らかであれば善くなるし、汚れていれば悪くなります。

それゆえに、純は平和型だといっても、必ずしも平穏な生き方が出来るとは決まっていないのです。

〔たとえば〕子どもの頃に悪い友達と付き合って、悪い仲間に入ってしまうと、悪いほうへドンドン染まって行きます。そういう可能性を持っているのが純の宿命です。

濁はもともと濁っていますから、ほかの色を混ぜても、色に変化があらわれないのです。
言い換えれば、濁の人は周囲の影響を受けにくいのです。

〈濁〉まわりの影響を受けにくい

これらのことが、まずは、純と濁の意味合いの基本としてあります。

☞ **間違えやすい部分があります。**
〈純〉はまわりの影響を受けやすく、馴染みやすいわけです。
〈濁〉はまわりの影響を受けにくい、馴染みにくいわけです。
〔たとえば〕親がお金に汚ければ、〈純の子供〉は親の真似をしてしまうのです。親の色に染まって汚れます。
ところが〈濁の子供〉は、親の姿に反発する傾向があります。

“馴染んでしまう”という意味は……良くも、悪くも、馴染んでしまいます。

ヤクザの世界で育つと、最も典型的なヤクザになるのが〈純〉です。
それは〖十大主星特性④〗〔牽牛星〕の科目で、その意味合いを説明しました。

〈純の星〉はまわりに馴染みやすいのです。
それゆえに、最も悪人になるのは、純の宿命の人です。
「血も涙もない」というやり方を、もし出来るとしたら、純の宿命のほうです。まわりの環境に馴染んでしまい、どんな色にも染まってしまうからです。

このように、〈濁の宿命〉と〈純の宿命〉の意味合いの違いを、取り違えて解釈してしまう部分があるわけです。

☞ 純にしても、濁にしても、宿命と環境が一致したほうが生きやすいです。
動乱型の人は、動乱の世界で生きたほうが活躍できますし、生きやすいのです。
そのように考えて頂きたいのです。

✏〈純濁〉をつかって、『相性（あいしょう）』を観ることができます。
おもに結婚の相性です。

ここでは ○ × であらわします。

純と純　○

純の人と純の人、相性は○です。相性は良いです。

濁の人と濁の人、相性は良いです。

濁と濁　○

純の人と濁の人、相性は悪いです。

純と濁　×

これはとても簡単ですけど、〈純〉と〈濁〉の世界は違います。
結婚して、一緒に暮らして行くというのであれば、純濁が一致していたほうが、一緒に暮らしやすいのです。

純と濁「長い結婚生活のあいだに、ヤスリで擦（こす）り遭（あ）うようになる」という表現があります。
それゆえに、〈純と純〉〈濁と濁〉の結婚であれば、相性

が良いのです。

〈純と濁〉の結婚生活は相性が悪いと考えてください。

結婚ということでいえば……。

〈純〉家庭的

〈濁〉非家庭的

純は家庭的、濁は非家庭的、という意味がありますから、主にこの点を当(あ)て嵌(は)めて考えればよいのです。

純と純の夫婦であれば、家庭的な人同士なので、二人の気が合う部分です。

濁と濁でも、非家庭的な人同士なので、これも気が合います。

☞〈純〉と〈濁〉の夫婦の姿はどうでしょう。

夫は純の宿命で家庭的、妻は濁の宿命で非家庭的……、この組み合わせで結婚して、妻が家庭におさまるような生活になりますと、〈濁の妻〉に不満が芽生えてくるのです。非家庭的というのは、家庭内だけに納まることができないのです。〈濁の妻〉は家の外へ頻繁に出歩くとか、

あるいは、仕事をもつとかの生き方のほうが、濁の妻には合っているわけです。
それが本来の姿ですから、家庭のなかだけ押し込まれてしまう生活になると、不満が噴出してきます。

〈濁の妻〉は、仕事をもちたいとか、外に出たいとか、そのように想う可能性が高いのです。
このことは仕事だけに限りません。
好きな趣味とか、ほかの行動でも構いません。
いずれにしても、家庭の外でチカラを発揮したい……というふうになってくるわけです。

ところがです。
〈純の夫〉は、家庭的ですから、妻は家に居てもらいたいと考えるわけです。
このことは〈純の夫〉と〈濁の妻〉の夫婦であっても、経済的な理由とかで、妻も働かなくてはならない事情があれば別です。
しかし、そこに特別な理由がなければ、妻は家に居てもらいたいと思うのは〈純〉の基本的な性格といえます。
そうしますと、その部分が夫婦の間での意見の隔たりと

なり、齟齬(そご)が生じてきます。つまりボタンの掛け違いのように、意見が合わなくなるわけです。

新婚当時は熱熱(あつあつ)でも、結婚生活は長いですから、熱も冷めてきます。

〈濁の妻〉は家にいると不満がつのる

そのため仕事をもちたがるようになる

〈純の夫〉はそれに不満をいだく

〈純の夫〉は家庭的だといいましたが、家庭的というのは、家庭を大切に考える人ですよね。

家庭は、平和で、のどかで、安定しているのが望ましいと考えるわけです。

家庭を大切に考える夫は、どうしても夫自身の眼が家庭のほうへ向くことになります。

端的いえば、「家のことに口出しをする、口を挟む」わけです。

〔司禄星〕のところでも、おなじような説明をしました。

〈濁の妻〉にしてみれば、夫から家庭のことをいろいろいわれるのは、いやだし、けむったいですよね。

「口出しをして欲しくない」となってくるわけです。

この問題だけで、二人が離婚になるという結論は出せません。しかし、このようなことに起因して、夫婦の意見が合わなくなることが、多くなってくるわけです。
それが重なって、夫婦仲が悪いほうへ向かうと、純の夫は余計に家のことに口を挟むようになります。
夫の側としては、仲良くして、平和な家庭を築こうという思いが強くなると、余計に口出しをしたり、仕事が終わると、早く家に帰って来たりするようになりやすいわけです。
つまり、自分が家のことも、あるいは、子供たちの面倒もなるべく看(み)てやろう、というふうな姿になって行くわけです。
そうなると、濁の奥さんとしては、ますます不満が増して、ストレスの悪循環にもなるわけです。

世間から「家族おもいで、家庭を大切にするよいご主人ですよね」とかいわれると……**濁**の奥さんの胸内では、（うるさいだけ、わずらわしい）という思いが高まって夫の姿や行動が疎ましく見えるようになって来ます。
奥さんは濁の質ですから、夫が少々非家庭的であっても、

動乱にも立ち向かって行くような姿の夫であれば――（頼もしい夫……）と想うわけです。

〈純の夫〉は家のことに口出しするようになる

↓

〈濁の妻〉はそれが不満になる

このように考えていくわけです。

これから勉強が進んでいくと、ご理解いただけますが、「相性（あいしょう）を観（み）る」のは〈純濁〉が全てではありません。
相性の観方はいくつもあります。
いくつもある観方を統合して〔二人の相性の程度は……こうですね〕というふうに答えを出していくわけです。
そのなかでも〈純濁〉は相性を観るうえで大事な技法ですから、人体図をだしたら―― 純なのか、濁なのかを、必ずだしてください。お願いします。
また、夫婦の占いするときに、〈純の夫〉に〈濁の妻〉とか、〔夫も純〕で〈妻も純〕とかさまざまです。
その部分を見逃さないで観るようになさってください。

☞ それほど重要な部分ではないのですが、つぎのような観方があります。

同星（おなじ星）が複数あると〈濁〉を生じます。

つまり、おなじ星が二つ以上あると、〔濁の質〕が少し加わります。

おなじ星が二つ以上あると、そこに濁の質が少し加わる

〔貫索星が二つあるとか〕〔鳳閣星が三つあるとか〕

おなじ星が複数ある場合には、その星が〈純の星〉でも、〈濁の星〉でも、そこへ濁の質が少し加わります。

つまり、同質の星が複数あるということは、そこに少し濁の要素が加わっている。というふうに観るのです。

“濁の要素が加わる”といっても、〈純星〉が〈濁星〉になるということではありません。

参考・要素〔物事の成立に必要な成分・条件〕

☞ 純濁法というのは、あくまでも……、

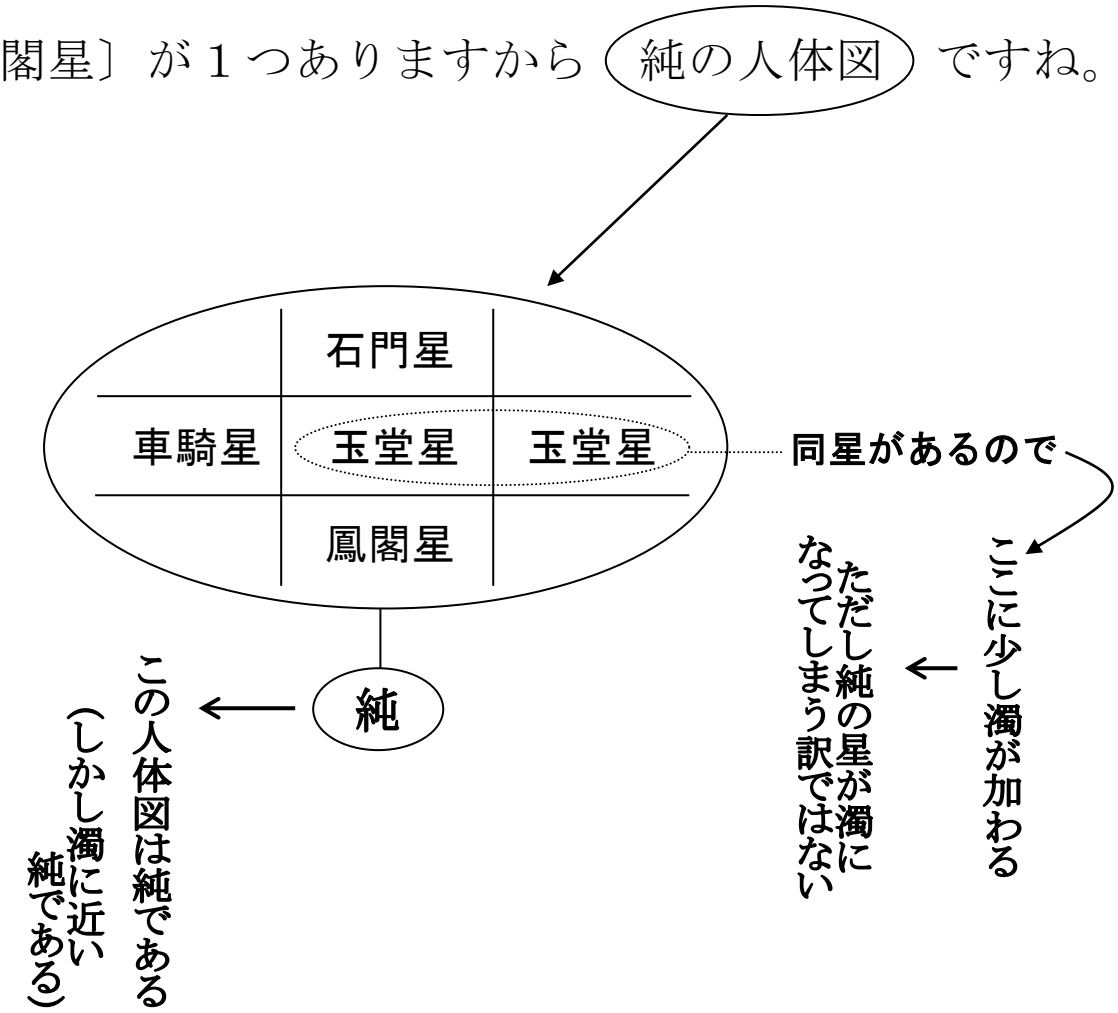
濁の星よりも、純の星が多ければ、純の人体図です。

純の星よりも、濁の星が多ければ、濁の人体図です。

人体図に〈純星〉か〈濁星〉のどちらかが多ければ、その人体図の特徴です。人体図に純の星多ければ〈純の人体図〉です。

つまり〈純の宿命〉です。それは変わりません。

〔たとえば〕下記の人体図には……〔玉堂星〕が２つ、〔鳳閣星〕が１つありますから 純の人体図 ですね。



〔玉堂星〕と〔玉堂星〕は純と純の星です。つまり同星（どうせい）です。上記の人体図のように〔おなじ星が二つ以上あると、濁の気が生じる〕ということです。

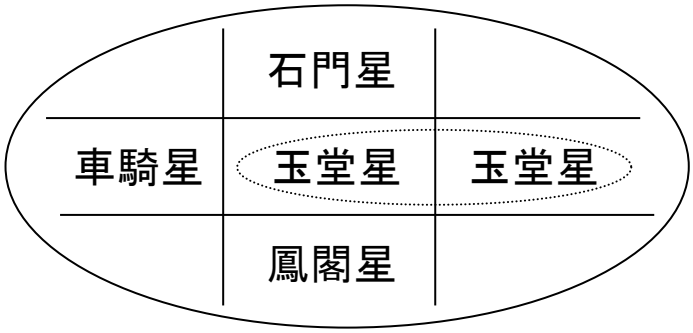
☞ 間違いないようにしてくださいね。

玉堂星は本来〈純〉です。玉堂星の純の質に〔少し濁の質が加わります〕ということを意味しているのです。

上記の人体図が、純の宿命であるということは変わらないのです。

純の宿命に、少し濁の質が加わって、純だけどチョット濁に近いような、純の人もいるわけです。

この人体図は〔玉堂星〕２つに加えて、〔鳳閣星〕が１つありますから、純星３個の〈純の人体図〉です。



〈純〉の人体図なのですけど〔玉堂星２つの同星（どうせい）〕があります。その同星に〈濁〉の質が少し加わりますので、“濁に近い純です”というふうに考えます。

∞ 夫婦の相性の程度を観るには、夫と妻の人体図にある〈純星〉と〈濁星〉を数えます。

先ほど、純と純は相性がよい、純と濁だと相性が悪い、といいました。では、より正確に――どの程度の相性なのかを観るときには、純と濁を数（かぞ）えます。

純と濁の数（かず）までおなじだと、より相性がよくなります。

具体的には：

A さんの家は、夫は〈純〉で、妻も〈純〉の宿命です。

夫は純星が３つで、濁星が２つある純の宿命です。

妻は純星が５つあるので、全部純の宿命です。

〔妻は純星が５つあるので、全純（ぜんじゅん）の宿命です〕

B さんの家は、夫も妻も、両方とも純です。

夫は純が４つで、濁が１つです。

妻も純が４つで、濁が１つです。

B さん夫婦は純の宿命で、純星と濁星の数まで一致しています。

A さん夫婦は夫も妻も〈純〉です。その意味では、相性が良い部類に入ります。しかし、〈純星〉と〈濁星〉の数は夫のほうは濁星を２つもっています。

妻のほうは全純で、濁星は１個もない人体図です。

そうしますと、この夫婦は……相性が良い部類に入りますけど、お互いに合わない部分も兼ね備えているということになります。

お互いに、合わない部分をもち合わせている夫婦

このように考えるわけです。

A さんの夫婦と B さんの夫婦を比べたときに、A さんも B さんもおなじ〈純〉同士の夫婦ではあるのですが、B さん夫婦の場合は、純濁の数も一致していますので、特に相性がよい。ということになるわけです。このような違いがあります。

☞ 一方は〈純〉で、一方は〈濁〉という人体図の夫婦は、相性は（×）です。と説明しました。

〔たとえば〕〈純の人体図の夫〉と〈濁の人体図の妻〉という組み合わせだとしても……夫のほうは〈純星〉3 個、〈濁星〉２個もっていれば、〈純星〉のほうが多いわけですから、夫は純星の人体図です。純の宿命です。

〔たとえば〕……。

人体図を観たときに、夫は〈純星〉３個で、〈濁星〉２個をもっているのであれば、〈純星〉のほうが多いわけですから、夫の宿命は〈純〉です。

そして、妻は〈濁星〉３個で、〈純星〉２個もっているのであれば、この夫婦の〈純星〉と〈濁星〉を比較したときに、それほど大きな違いはありませんから、それほど悪い相性にはならないのです。**夫婦の〈純〉と〈濁〉の**

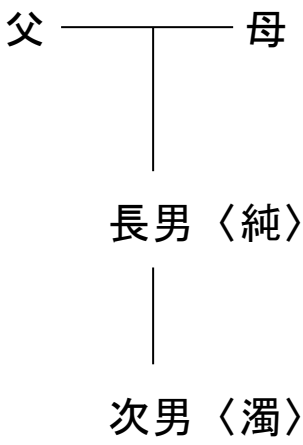
星の数を比較したときに、どの程度の『差』なのかは、このようにして観ていくわけです。

➪ 純濁法は、他人・兄弟・友達にも、当て嵌めて観てよいのです。
ただし――友達とか、仲間ということで考えると、通常は１人だけということはないでしょう。
私たちは何人もの他人と、人生の過程で巡り合い、お付き合いしながら、生きていくようになります。
自分が〈純〉であれば〈濁の人〉、自分が〈濁〉であれば〈純の人〉というふうに、質の異なる人たちと人間関係を築くほうが自分自身は成長します。

さまざまな状況を踏まえて考えますと、友達であっても〈純〉なら純同士、〈濁〉なら濁同士、そのほうが気持ちは通じ合うといえますけど、自分が純だからといって、純の人とばかりで付き合っていたとすれば、自分自身が成長しなくなると考えています。
自分とは違う、異質の人とも付き合う必要があるのです。
算命学はそのように考えています。

✏ 子供の場合には、純濁法で観るよりも、つぎの事象のほうが重要になります。

〔たとえば〕父と母がいます。



人体図は〈長男は純〉〈次男は濁〉とします。

まずは人体図を観て、父と母の〈純濁〉を出します。
そして、親と子の相性を純濁で考えたときに、親と子がおなじ〈純濁〉のほうが相性は良いはずだと……そのように考えるのではありませんか――いかがでしょう。
それは間違っているとはいえないのですが、もっと重要なことがあります。

〈純〉は平和型、〈濁〉は動乱型ということでした。

このときに「子供にとっての『平和と動乱』というのは」親の仕事がどうだとか、転勤が多いとか、経済的にどう

だとか、そのような事柄も入りますが、それよりもっと問題なのは、両親の夫婦仲が〔良いのか、悪いのか〕ということのほうが重要だと考えています。

子供にとっては、親の夫婦仲が悪ければ動乱です。
家で父親と母親がしょっちゅうケンカばかりしている。
お父さんが酔っ払ってお母さんを殴るとか、お母さんがお皿を振り上げて、お父さんを追い掛けまわすとか――、〔たとえば〕そのような家庭だとすれば、それは動乱の家庭ですよね。
昨今はニュースで結構ありますよね。
夫が妻を殺したとか、妻が夫を殺したとか、その家庭は動乱です。
そういう家庭の動乱に強いのは〈濁の子供〉なのです。

夫婦仲が良いのは、子供にとっても平和な環境です。
両親の仲が良くて、家族団欒ですごせる家庭は、子供にとって、安心して過ごせる場所です。
ところが――親の夫婦仲が悪い、それは動乱です。
実際に両親が離婚したとなれば、子供にとっては大動乱

です。そのようなきびしい環境でも、たくましく生きていけるのは〈濁の子供〉です。

親が離婚したことが原因で、子供が非行に走る、子供が登校拒否になるとか、そのように崩(くず)れるのは〈純の子供〉です。
それゆえに〈純の子供〉が生まれて育つ過程で、両親は仲良くする必要があります。
でも、実際には、なかなかうまくはいかないのです。

そうしますと、実際の問題として……両親に〈純の子供〉と〈濁の子供〉の二人が生まれて来たら、〈純の子供〉にはなるべく家庭団欒の育て方をすることです。

長男〈純〉家庭団欒の育て方

兄弟でも“個々の質はおなじではない”と算命学は考えています。

それゆえに、〈純の長男〉よりも、〈濁の次男〉に対しては――きびしい環境を与えるのです。
親としては、一般的に〔兄弟を平等に育てよう〕とするでしょう。算命学は異なると考えています。

〔たとえば〕次男は遠くの学校に通わせるとかでも良いですし、寮に入れるとかでもよいですし、クラブ活動で厳しく鍛えられる、というのでもよいですね。

〈濁の子供〉にとって、なにか動乱となるような、厳しい環境を与えてあげたほうが、その子供の伸びが良くなります。

次男〈濁〉には、厳(きび)しい環境を与える

〈濁〉は少し理解しにくい側面があるかと思います。
さきほど――夫婦の相性ということで、人体図のすべての星が〈純〉の〈全純(ぜんじゅん)〉という人もおられます。
世の中は濁っている『濁の世界』だと、算命学は考えているのです。

中庸学における霊的な観方をしても、兄弟の魂は別です。
親と子供の縁(えにし)はあっても、親と子の魂は別です。
魂というのは「個々の存在」なのです。
縁ということについても、そこには人間としての役割、悟りにつながる、カルマの修正が横たわっています。

☞ 世の中……人間が生きる世界を、皆さまはどのようにお考えですか？
昨日まで、平和だったけど、突如、震災による大洪水、土砂災害、放射能が拡散するとか、新型コロナが猛威をふるう、急に戦争が勃発してロケット弾が打ち込まれるとか、さまざまな状況に陥ります。

不安定・動乱ということでは、大手企業でも、大きな銀行だといっても、あっという間に潰れてしまうということが起こります。
世の中は不安定だと、算命学では考えています。
そのときに、もし〈全純〉の人間がいたら、現実世界において生きていかれない。ということにもなります。
しかし、人体図におなじ星〔同星〕があれば、それらの星に〔濁の質〕が加わりますから、その部分で世の中の流れに合流していけるということになるわけです。

〈純〉の人体図の人でも、おなじ星が二つ以上あれば、そこに濁の要素が加わります。
それが濁の社会に対応できる扇（おうぎ）の要（かなめ）なのです。

☞ 純濁そのものに、良いとか、悪いとか、それはまったく無いのです。

しかし、人体図の５星がすべて純の星〈全純〉だとすれば、非常に生きにくいのです。

しかし、そのなかに同星が二つあるとなれば、〈濁〉が加わりますので、その部分が世の中に合せられる“かなめ”にもなるわけです。

🔍 鑑定のときは、そのような箇所を見逃さないで……

観ていただきたいのです。

❒ 曽我ひとみさんの一家を〔例題〕として考えます。

曽我 ひとみさん 一家

曽我ひとみ　1959-5-17

	貫索星	天報星
牽牛星	調舒星	牽牛星
天報星	貫索星	天将星

濁

（守備）貫索星・貫索星

（伝達）調舒星

（攻撃）牽牛星・牽牛星

ジェンキンス　1940-2-18

	石門星	天庫星
禄存星	牽牛星	玉堂星
天馳星	玉堂星	天報星

純

（守備）石門星

（伝達）

（攻撃）牽牛星

（魅力）禄存星

（習得）玉堂星・玉堂星

長女（美加）　1983-6-1

	調舒星	天胡星
貫索星	車騎星	鳳閣星
天禄星	牽牛星	天貴星

濁

（守備）貫索星

（伝達）鳳閣星・調舒星

（攻撃）車騎星・牽牛星

次女 ブリンダ　1985-7-23

	鳳閣星	天南星
石門星	車騎星	車騎星
天将星	貫索星	天庫星

濁

（守備）貫索星・石門星

（伝達）鳳閣星

（攻撃）車騎星・車騎星

☞同じ星を持つ者は相手と気持ちが通じ合う。　お互いの考えを良く理解できる。

✱ジェンキンスさんだけ異質な人体図

① 家族で何かやろうとすると、一人だけ反対の意見を出す。

② 曽我さんは娘たちが生まれて強くなった。

③ 娘２人は曽我さんの云う事を聞く。ジェンキンスさんだけ云う事を聞かない。

☞ **十二大従星はまだやっていませんが、人体図に書きました。**

✏ ここからは、 04 頁の純 濁 法 を参考にして、〈純星〉と〈濁星〉の判別をします。

✤ 曽我ひとみさんはどっちでしょうか？

〈濁〉ですね。

〔貫索星・調舒星・貫索星〕と濁星が３つあります。

〔牽牛星〕は純の星です。

濁のほうが多いので、曽我さんは〈濁〉の人体図です。

✤ 長女の美加さんはどっちでしょうか？

〈濁〉ですね。

〔調舒星・車騎星・貫索星〕と濁星のほうが多いですから、これも濁の人体図です。

✤ 次女のブリンダさんはどうでしょうか？

これも**濁**ですね。

この人は〔鳳閣星〕だけが純の星で、ほかの４つは濁星なので、濁になります。

✤ ジェンキンスさんはどうでしょう？

夫のジェンキンスさんは〈純〉です。

➪ 妻が〈濁〉の人体図の現象については、すでにご説明したわけですが、曽我さんご夫婦もそのパターンです。現象としては――夫婦喧嘩とか、意見の食い違いとかが起るはずです。この場合はそれに加えて、４人家族のなかで、３人が〈濁〉なのに、ジェンキンス１人だけ〈純〉です。このように家族のなかで１人だけ〈純〉で、ほかの家族の全員が〈濁〉となると、ジェンキンスさんだけが、一家のなかで異質な存在になります。

〈純の人〉が異質になるということではありませんよ。

ここで論じているのは、みんなが〈濁〉なのに、１人だけ〈純〉なので、一家のなかでは異質の存在という意味です。

ジェンキンスさんだけが、一家のなかで異質な存在

彼がアメリカ人だからということではなく、一家のなかで、１人だけ〈純〉の人体図なので、ジェンキンスさんだけが、ほかの３人とは考え方が違ってくるのです。

１人だけ考え方が異なる

そのために一家の状況が悪く出ると、ジェンキンスさんだけが“仲間はずれ”みたいな家族になります。

母親と娘二人は、何かをやるのに、いつも一緒なのに、彼 1 人だけが別のことやっている。そのような状況と考えて頂くとよいでしょう。1 人だけ浮いた存在というふうなお父さんになっていきます。

“1 人だけ浮く存在”このことは、たとえ夫婦仲が良くても起こります。仲が良くても、悪くても、そうなります。

☞ 37 頁に 曽我 ひとみさん一家 4 人の宿命を並べたのは、もう一つ理由があるのです。

このことは、まだチョット難しいとは想(おも)うのですが――

十大主星は、それぞれ本能が決まっていますよね。

〔貫索星〕なら守備本能だとか、〔調舒星〕は伝達本能だとか、〔牽牛星〕は攻撃本能だとか、十大主星のもつ本能が重要なものになるのです。

さて、人体図の〈純星〉と〈濁星〉が判別しましたら、曽我 ひとみさん一家 には、すでに記述されていますが、それぞれの十大主星が〔何本能の星〕になるのかを調べるのです。

✤ まずは、曽我さんの人体図の十大主星は何本能なのかを分析しますと、この人は〔貫索星〕が二つあります。それゆえに、彼女はそうとう頑固な性格だと考えられます。本能でいえば守備本能が二つあります。

〔貫索星〕〔貫索星〕⇒ 守備本能

そして、伝達本能〔調舒星〕を１個もっています。

〔調舒星〕⇒ 伝達本能

〔牽牛星〕は２個あります。攻撃本能の星ですね。

〔牽牛星〕〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

このようにして、その人のもっている星を、本能になおすと、曽我さんは、守備本能の星と、伝達本能の星と、攻撃本能の星をもっています。

３種類の本能の星があるということになります。

守備本能・伝達本能・攻撃本能の星だけがあります。

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕はないです。

習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕もないです。

このようになるわけです。

☞ 曽我さんとおなじ方法で、ほかの３人もやります。

✤ 長女をやっていきますと、長女も〔貫索星〕をもっています。守備本能の星があります。

〔貫索星〕⇒ 守備本能

〔鳳閣星〕と〔調舒星〕をもっています。
この２つは伝達本能の星です。

〔鳳閣星〕〔調舒星〕⇒ 伝達本能

そして〔車軺星〕〔牽牛星〕をもっています。

〔車騎星〕〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕はないです。
習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕もないです。
長女の人体図には、守備本能の星と、伝達本能の星と、攻撃本能の星があります。
本能でいえば、曽我さんとピッタリ一致しています。
このように、自分のもっている本能が、母親とピッタリ一致するというのは珍しいのです。

✤ つぎに、次女も観ます。

次女も〔貫索星〕と〔石門星〕をもっています。

〔貫索星〕〔石門星〕⇒ 守備本能

〔鳳閣星〕をもっています。

〔鳳閣星〕⇒ 伝達本能

〔車輗星〕が２つあって、これは攻撃本能の星です。

〔車騎星〕〔車騎星〕⇒ 攻撃本能

次女の人体図も、守備本能・伝達本能・攻撃本能という３種類だけです。

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕はないです。

習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕もないです。

このように、母と娘の３人がピッタリと一致するというのは、極(きわ)めて珍しいのです。

✤ 父親のジェンキンスさんはどうでしょう。

〔石門星〕の守備本能が１個あります。

伝達本能の〔鳳閣星〕と〔調舒星〕はないです。

〔石門星〕⇒ 守備本能

そして〔禄存星〕魅力本能の星が１個あります。

〔禄存星〕⇒ 魅力本能

〔牽牛星〕の攻撃本能が１個あります。

〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

それから〔玉堂星〕を２個もっています。

〔玉堂星〕〔玉堂星〕⇒ 習得本能

ジェンキンスさんの人体図にある星を本能になおすと、守備本能の星、魅力本能の星、攻撃本能の星、習得本能の星になります。

そうしますと、母と娘の３人がいずれも、伝達本能の星をもっていますけど、ジェンキンスさんには伝達の星が１つもないです。

ジェンキンスさんには、魅力本能の星がありますけど、母と娘の３人は、魅力本能の星が１個もないです。
ジェンキンスさんは、習得本能もあるのに、母と娘３人は、習得本能は１個もないです。

このように並べて見ると、おわかりになると思いますが、ジェンキンスさんだけが、母娘３人と本能の種類が全く違います。

しかも、母と娘の３人は〈濁〉の人体図です。
なおかつ、３人とも本能がピッタリ一致しています。
ジェンキンスさんだけが〈純〉の人体図です。
本能で調べても、１人だけ違った本能です。

☞ 本能について説明しますと、母と娘のようにピッタリおなじ本能になるということは、母がもっている本能が、娘にもあるわけですから、娘とは気持ちが通じ合います。

おなじ本能をもつ者同士は、気持ちが通じ合う

自分がもっている本能が、娘たちにあります。
自分にない本能は、娘たちに無いです。

このような、母と娘の姿というのは、思考回路がおなじになります。
母と娘たちは、お互いの考えをよく理解できます。

お互いの考えを、双方が良く理解できる

ここでは、母と娘がおなじ本能になっていますので――
〔たとえば〕「あれ」っていっただけで、「ああ、あれね」というように、わかるようになります。
「以心伝心」という言葉がありますが、そうなのです。
もう、「あれ」だけで通じてしまう。

おなじ本能で、親子とか夫婦とか、家族になっていたら、いつも一緒に顔を合せているわけですから、顔を見ただけで、相手が何を考えているか、ほぼわかってしまうということが起こります。
曽我さんと娘は、そういう組み合わせになっています。

ですから、曽我さんが、娘たちに「あれどうした？」といえば――娘たちは「ああ、あれね、お母さん、あれはこれこれこうでこうなったのよ」と、それだけで通じて

しまう親子になるといえます。

ところが、曽我さんがジェンキンスさんに、「あれどうしたの？」というと、「ああ、あれはこうなったんだ」と、まったく関係ないことを、言ったりするわけです。
〔たとえば〕そのような違いになってくるのです。
ボタンの掛け違いのように、齟齬（そご）が生じてくるわけです。

曽我さん家族の〈純濁〉の違いを見ておわかりになると思いますが、3 人は濁で、ジェンキンスさんだけ純です。本能で考えても、3 人はピタリと一致しているのに、1 人だけ全く違います。

そうしますと、ジェンキンスさんだけが、家族のなかで異質な存在ですよね。

・ジェンキンスだけ異質な人体図

そうなってくると――つぎのような現象が起ります。
箇条書きで、並べて考えていきますけど、家族のなかで、1 人だけが〈純〉で、本能も違う人ということですから、

（1）家族で何かをやろうとすると、１人だけ反対意見を出す

こういう人になっていきます。

〔たとえば〕母親が「みんなで、今度こういう所に行きましょうよ……」そういう話になったら、娘たちは賛成するのに、ジェンキンスさんが反対します。

「いや、自分はあのほうがいいよ」とか、何かにつけて、このようなことが多くなります。

そして、このようなこともいえます。

曽我さんは、拉致被害者です。

日本から、いきなり拉致されて北朝鮮に連れて行かれたわけです。このときに曽我さんのお母さんも一緒に拉致されて、お母さんは行方不明ということです。

曽我さんは一人ぼっちの状況におかれて、非常に心細い立場だったわけです。それでありながら北朝鮮で、立派に生き抜いてきたということは、〈濁〉の宿命であったことも理由の一つです。〈濁〉は動乱には強い宿命です。

曽我さんが生き抜いてこられたのは、〈濁〉もその一つですけど、そのほかにもいくつかの要素をもっています。

宿命そのものが、とても“したたか”なのです。

ジェンキンスさんは純です。

彼は自分から北朝鮮へ行ったわけです。自分から北朝鮮へ亡命して行くのと……無理矢理に拉致されてしまうのとでは、はるかに曽我さんのほうが動乱といえます。

その波乱のなかで生きて来られたのには、〈濁〉の宿命も理由の一つです。

☞ 娘さんの人体図を観ておわかりのように、娘さん二人が、曽我さんと全くおなじような星をもって、産まれてきてくれたわけです。

先ほど、母親が「みんなで、今度こういう所に行きましょうよ」と、そういう話になったら、娘２人が賛成してくれるとなれば、それだけでとても心強いはずです。

曽我さんのような人体図の人に、自分とおなじような星をもつ娘が生れると、曽我さんはより強くなります。

曽我さんは、娘が生まれたことで強くなりました。

（２）曽我さんは、娘たちが生れて強くなった

ここまで〈純濁〉ということで考えてきました。

ここの部分は、まだ慣れてないので、皆様にはチョット

難しいところがあると思いますけど……。
いきなり拉致されて、北朝鮮という国へ連れて行かれて、まったく言葉も通じない、そこで生きて行かなければならない状況下に置かれて生活し、生き抜いて来たわけです。非常に大変です。

曽我さんにとって、彼女とおなじような宿命の娘が二人も産まれて来てくれたのは、とても有り難いことです。
自分の考えを一番理解してくれる娘が２人も生まれたら、すごく心強いはずです。
ちなみに、このことはどなたにも当て嵌まります。
まったくおなじ本能の娘さん、そして、純濁でも自分とおなじ娘さんが２人も産まれたら、それだけでお母さんは強くなります。曽我さんにとって、娘さん二人が産まれたことは、大きな励みになったのです。

ここまでの話をまとめますと、この家族のなかでは……

（3）娘二人は、曽我さんの意を受けとめるけど、
ジェンキンスさんだけは、いうことを従わない。

算命学ではこのように占うことができます。

〈濁〉の二人の娘は、曽我さんのいうことを聞きます。
〈純〉の夫は、いうことを聞いてくれない、理解してくれないという家族になります。

１人だけがまったく違う人体図だと（彼がアメリカ人ということよりも)、その１人はいうことをきかなくなります。
曽我さんが何かをするとき、娘たちは賛成してくれるのに、ジェンキンスさんだけ反対します。

ジェンキンスさんも日本に来ることになって、飛行機から降りて来たら、曽我さんはいきなりキスをしました。
曽我さんは、ジェンキンスさんだけは、簡単にいうことをきいてはくれないと理解していたはずです。
何十年も一緒に暮らしていればわかるでしょう。
娘二人に関しては、あとで話せば理解してくれるという自信があったわけです。
しかし「夫はいうことをきいてくれない」という不安があったのです。あのキスは「今回だけは、私のいうことに従ってもらいます」この宣言なわけです。
おわかりいただけますでしょうか……？

“愛している”そういうこともあるかも知れませんが、おわかりのように、この夫婦の相性（あいしょう）を星になおして考えたときに、決して相性の良い夫婦ではないのです。

ふつう――何年も離れていたら、母として、初めに娘を抱きしめるのではないですか……？
そうでありながら、いきなり夫に行ったのは「私の気持ちは決まっています」と宣言したようなものです。
キスで夫を黙らせてしまったのです。

そのように考えますと、曽我さんは北京で会うことを、嫌がっていました。
北京で会えば、ジェンキンスさんの背後には、北朝鮮の人間が何人もいるはずです。なかなか、妻の意に沿（そ）ってくれない夫なのに、北京で会えば、ますます自分のいうことを聞いてくれないということがわかっていたから、北京で会うのは反対したのでしょう。
ジェンキンスさんとしても、北朝鮮の人間がいるのに、日本に行こうと勧められても、うんとはいえません。
彼の主星は〔牽牛星〕プライドの星です。

ジェンキンスさんの人生は、運勢的に第一命星の妻の座からはじまっていますから、北朝鮮の生活は曽我さんに支えられて来た部分が多々あると想えます。
そのジェンキンスさんも、曽我さんの行動には驚いたでしょう。「これはもうひとみの決意は固い」と、思い知らされたはずです。彼は曽我さんの強さを熟知しています。

日本に帰ってきて、曽我さんは 3 人で佐渡に行きましたが、ジェンキンスさんを置いてです。
彼に対する愛情はあるかも知れませんけれど、それよりも曽我さんは、娘と 3 人で暮らしたかったのです。
日本に永住すると決まると、３人で佐渡に行ってしまうわけです。
ジェンキンスさんがアメリカからの訴追(そつい)をまぬがれても、家族のなかで暮らしていくのは、かなり寂しいものがあります。曽我さんと娘 2 人の意見に押し切られて、暮らして行かなければならなくなります。
ジェンキンスさんは、2017 年 12 月 11 日〔77 歳〕で他界しました。彼が佐渡に来た日の言葉があります。
「今日私の人生の最終章の始まりとなる日です」

当時のニュースで、ジェンキンスさんが酔って骨折したそうですが、アル中だという報道もありました。

まだ、皆さんは慣れていませんので、少し難しかったと思いますけれども、段々に読めるようになります。
それには丸暗記で覚えるのではなくて、なぜこのような意味になるのか……という考え方を理解なさって頂きたいと思います。
そうすることで、後々、占いをするときに、きちんと星を読めるようになっていきます。

【初年】３５回目〖人体図純濁法〗 終わります

つぎの授業 ⇒【初年】３６回目〖二星相関変化法〗